

平成26年度 普及活動成果集



*Regional
promotions*



Flowers



Common crops

Vegetable

福岡県筑後農林事務所 八女普及指導センター

平成27年3月

はじめに

八女地域は、県内屈指の農業地域であり、イチゴを始め、電照ギク、荒茶、米、トマト、ナス、ミカン、ブドウ、キウイフルーツ、ガーベラ等の主要品目は、県内の上位です。

総農家戸数 7,280 戸、うち主業農家 2,107 戸(2010 年センサス)、認定農業者数 1,214 経営体(平成 27 年 3 月末)で、主業農家と認定農業者は県内の約 2 割を占めています。

当普及指導センターでは、本年度、次の農業振興の方向のもと、プロジェクト課題と一般課題を設定し、生産部会・J A・市町等の関係機関・団体と連携し、普及活動を展開しました。

(農業振興の方向)

- ・ 農産物の価格低迷や生産資材高騰による所得率低下があり、認定農業者等の経営体質強化を図る。また、女性農業者の経営参画や起業を促進する。
- ・ 水田農業については、法人組織及び大規模農家の経営安定と集落営農組織の育成及

「ちくしW2号」

る。

- ・ 中山間地域では、主業農家の経営安定に向けた支援、各地区の推進品目や多様な農産物の生産出荷販売体制確立を推進する。また、安定継続可能な茶工場経営体の育成及び確保のための支援を行う。
- ・ 農業士・女性農村アドバイザー、関係機関と連携し、新規就農者の確保・育成を図るとともに、4Hクラブ員等の青年農業者の資質向上を支援する。

また、2012 年 7 月の豪雨災害からの復旧・復興のため、八女市農業復興推進会議を中心に関係機関一体となって、被災農家の経営状況把握や経営・技術の支援を行いました。

この活動成果集は、数年取り組んでいる活動も含め本年度の主な成果をご報告するものです。経営改善や技術向上の手法、地域や産地の振興方策などを参考にいただき、今後の農業経営の改善、地域農業の発展にご活用いただければ幸いです。

平成 28 年 3 月

福岡県筑後農林事務所八女普及指導センター長 伊藤忠義

目 次

	ページ
1 八女地域農業の概要	1
2 普及活動推進体制	2
3 普及活動成果	
(1) 八女の園芸振興と新規参入への支援	3
(2) 新たな担い手による八女産地の強化	5
(3) 持続可能な中山間地域農業の構築	7
(4) 女性農業者の経営能力向上	9
(5) 水稲「元気つくし」の生産安定に向けて	11
(6) トマトの新規者確保と経営安定化による産地拡大	13
(7) 新品種「シャインマスカット」の産地育成	15
(8) 中山間地を中心とした茶工場経営体の育成・確保	17
(9) 農業高校との連携による現地課題解決	19
4 平成27年の気象と各作物の生産概況	20
5 平成27年度 表彰事業実績	23
6 平成27年度 実証ほ一覧	25
7 平成27年度 現地活動情報	26

1 八女地域農業の概要

- 管内市町は、平成22年2月1日に八女市、黒木町、立花町、星野村、矢部村が広域合併し、八女市、筑後市、広川町の2市1町となった。
- 立地条件は、星野川、矢部川の流れに沿って東部から山間地、山麓地、丘陵台地、平坦地に区分され、耕地は標高5mから700mに存在する。
- 平成26年の耕地面積は、9,665ha（田4,507ha、畑5,158ha）で、平成20年より511ha（田101ha、畑410ha）減少し、年々減少傾向にある。特に畑面積の減少が大きい。
管内耕地の大きな特徴は、その半分以上を畑が占めていることであり、畑作を中心に園芸農業が盛んとなった要因でもある。
- 2010年の総農家戸数は7,280戸（うち販売農家数4,919戸、68%）、農業就業人口は9,876人で、2005年より、20%前後減少した。特に筑後市の減少が大きい。
- 平成27年3月末の認定農業者数は1,214経営体（前年1,217経営体）で減少傾向、平成26年の新規就農者数は48人（前年49人）でUターン（28人）や新規参入（16人）が多くなっている。
- 平成26年度のJAふくおか八女の農畜産物取扱額は255億円と前年をやや上回った。
なお、255億円の内訳は、普通作18億円、果樹70億円、野菜90億円、花き40億円、特産（茶）30億円、直売所（よらんの）7億円となっている。

1 耕地の概況（資料：農林水産統計年報）

耕地面積 (ha)	年 度	八女市	筑後市	広川町	合計	対比率
		20年度	7,266	2,065	845	
	26年度	6,830	2,018	817	9,665	
うち田	20年度	2,552	1,650	406	4,608	98.3
	26年度	2,490	1,620	397	4,530	
うち畑	20年度	4,714	415	439	5,568	92.6
	25年度	4,340	398	420	5,158	

2 農家の動向（資料：農林業センサス）

項 目	年	八女市	筑後市	広川町	管内計	対比
農業就業人口 (人)	2005	9,043	2,339	1,438	12,820	77.0
	2010	7,471	1,297	1,108	9,876	
総農家数 (戸)	2005	6,053	1,511	775	8,339	

2 普及活動推進体制

(1) 課・係体制と活動内容

※()は係員数。但し、平成27年4月1日現在。

センター長 参事	地域 振興課	地域係 (5) (うち庶務1)	<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者等産地を支える担い手の経営改善支援 女性農業者等の経営参画支援 新規就農者等の育成・確保 中山間地域振興及び災害復興支援
		水田 農業係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 水田の担い手の経営安定と育成 水稲の高品質安定生産及び県育成品種「元気つくし」の栽培管理の徹底 高品質(品質評価区分Aランク)麦の生産とラーメン用小麦「ちくしW2号」の品質安定 大豆収量の高位安定と高品質生産 米・麦・大豆種子の安定生産と品質向上
		野菜係 (7)	<ul style="list-style-type: none"> イチゴ産地の維持拡大のため次代を担うイチゴ生産者の育成・支援 冬春ナス、夏秋ナスの組合せや新技術の導入によりナス生産者の生産安定を支援 トマトの安定生産、品質向上技術の確立により産地の維持強化を支援
	野菜 花き課	花き係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 経営分析や相談会および現地指導を実施し、販売単価の向上を図ることによりキク経営の安定化を支援 品種検討、土壌管理技術などの向上によりガーベラ経営の安定化を支援 花き産地強化計画の実現に向けた支援
		特産係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な茶工場経営体を育成・支援 八女茶のけん引役である玉露の生産維持・拡大を推進 碾茶、紅茶等多様な消費者ニーズに対応した茶種生産の収益性を明らかにし、個別の経営環境に合わせた生産誘導による経営改善を支援
		果樹係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 果樹産地構造改革計画に沿った生産販売体制や農家の経営体質強化を支援 かんきつの先進技術の確立と優良品種導入を推進 落葉果樹の生産性向上と経営改善を支援 GAP実践部会を対象にGAPのレベルアップを支援 環境保全型農業志向農家を対象に環境負荷の少ない栽培を支援
	果樹 特産課	特産係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な茶工場経営体を育成・支援 八女茶のけん引役である玉露の生産維持・拡大を推進 碾茶、紅茶等多様な消費者ニーズに対応した茶種生産の収益性を明らかにし、個別の経営環境に合わせた生産誘導による経営改善を支援
		果樹係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 果樹産地構造改革計画に沿った生産販売体制や農家の経営体質強化を支援 かんきつの先進技術の確立と優良品種導入を推進 落葉果樹の生産性向上と経営改善を支援 GAP実践部会を対象にGAPのレベルアップを支援 環境保全型農業志向農家を対象に環境負荷の少ない栽培を支援

(2) 重点課題プロジェクト班の課題及び活動内容

課題名	主な活動内容
八女の園芸振興と新規参入への支援 (全域) H25~27	園芸農業の担い手は、高齢化が進み、部会退会等による面積の減少、生産量の減少、産地の縮小が続いている。打開策としては、既存農家の規模拡大や新規参入者等の育成による面積増を図り、産地の維持が急務である。そのためには、雇用型経営を目指す農家の重点的な育成と複合経営志向農家、新規参入希望者を支援し、園芸作物の作付増加を推進する。
	高齢化等により農業就業人口が減少する中、産地の維持発展のためには、新規就農者を受け入れ

3 普及活動成果

(1) 八女の園芸振興と新規参入への支援

～複合経営の推進と新規参入で園芸産地の維持を～

【要約】

個別経営相談会やコンサル、雇用管理研修会等を実施し、雇用型園芸農家の育成を行った。また、作物振興相談会での新規栽培者の掘り起しや新規園芸作物導入推進、さらに栽培開始後の技術支援を行った。その結果、雇用型経営に移行した経営体数は24、新規参入者数は24名、新規園芸作物導入面積は6.24haである。

【目的】

園芸農業の担い手は高齢化が進み、生産者の減少などにより栽培面積と生産量が減少し産地規模が縮小の傾向にある。既存生産者の規模拡大や新規参入者等の育成が急務となっている。

そこで、雇用型経営を目指す農家の育成と複合経営志向農家、新規参入希望者に対し技術などを支援し、園芸作物の維持拡大を図る。

1 活動対象の概況

J Aふくおか八女 野菜関係部会等 (2,047人) 8,777百万円、花き部会等 (412人) 4,125百万円、果樹部会 (2,117人) 6,428百万円 (平成24年度)

園芸作物志向農家及び新規参入希望者

2 活動の内容等

(1) 雇用型経営体育成

中小企業診断士や税理士による個別経営相談会を17戸に行った。農推協と協賛により、経営支援農家などに対して税理士や社労士などによる雇用管理研修会を開催した。(写真1、写真2)

経営・生産データを基に経営改善支援を行った。また、認定農業者経営改善計画作成支援時に雇用型経営の推進を行った。

雇用者の指導資料と新規者のために、イチゴの調製作業・イチジクの適期収穫のマニュアルを作成した。

(2) 園芸作物の生産拡大

作物振興推進会議に参画・支援した。

農業者向け作物振興相談会を2月と8月に、



写真1 中小企業士を中心とした個別経営相談会

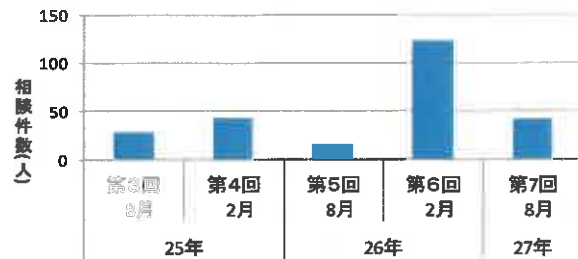


写真2 雇用管理研修会

8地区で行った。

併せて、品目毎の栽培講習会を行い、技術向上を図った。

イチゴ、トマトなどの施設園芸の新規希望者には、日々の活動で指導を行った。



(3) 新規参入への支援

女地域就農サポートシステムに沿っ

て、新規就農支援対策会議を核に、新規就農相談会(5月)、JA就農支援センター開設・運営など就農支援を行った。

5月に農外からの就農希望者を対象にした新規就農相談会を開催し、県農業大学校学生へ勧誘を行った。さらに、市町、JA、農振協との連携により、個別毎の支援を行った。

相談件数

注)26年2月は、茶部会の支部総会後の代議員への説明

3 活動の成果

(1) 雇用型経営体育成

雇用型経営体数は24増、うち1経営体が法人化。

個別経営相談会で農家の課題に対する道筋が明らかになった。

(2) 園芸作物の生産拡大

新規園芸作物導入面積は、6.24ha増加した。

導入品目は、イチゴ、トマト、オクラ、アスパラガスなどである。

(3) 新規参入への支援

JA就農支援センターは27年9月に開設し、5名の研修生が就農に向けて篤農家の指導のもと、イチゴやトマトの技術を習得している。

就農後は、イチゴで1年目の基礎講座、2年目の実践講座、トマトで2回/年の基礎講座を行い、早期技術習得を図った。

新規参入者数は24名である。



4 今後の見通し又は課題

(1) 家族経営から規模拡大を目指した園芸農家への支援。

(2) 新規作物導入農家及び新規就農者の継続と定着化に向けての栽培技術及び資金、事業活用の支援。

(3) 新規参入者に対しては、新規就農支援対策会議を核としたワンストップ就農支援。

JA就農支援センターの運営支援。

課題名：八女の園芸振興と新規参入への支援 平成25年～27年

(2) 新たな担い手による八女産地の強化

～新規就農者及び青年農業者の確保・育成～

【要 約】

関係機関が連携した就農支援により農大研修生が就農し、JA就農支援センターに5名が研修中。新規就農者（就農1～3年目）の聞き取り調査を実施、悩みや課題を把握した。八女地区4Hクラブ活動支援として、役員と連携して学習会や視察研修を実施した。

【目 的】

高齢化等により農業就業人口が減少する中、産地の維持発展のためには、新規就農者を受け入れ育成していくことが重要である。また、27年度にはJA農業研修施設が開設された。八女地域農業振興推進協議会に設置された「新規就農支援対策会議」により相談から就農までをトータルでサポートするシステムを整備し、新規就農者の確保を強化する。就農後のサポートとして、新規就農者の状況把握により悩み等の相談・支援を強化し、担い手としての定着を図る。

さらに、より魅力ある4Hクラブとなるよう、その活動を拡充することにより、新規加入者を確保し将来の地域リーダーとなる農業者の育成を図る。

1 活動対象の概況

新規就農相談者数 (H26) 延べ110名
新規就農者 (就農1～3年目) 101名
(1年目28名、2年目41名、3年目32名)
八女市・黒木町4Hクラブ員 (H26) 13名

2 活動の内容等

(1) 新規就農者の確保

5月17日(日)JAふくおか八女別館会議室で就農相談会を開催し9名(当日5名、後日4名)の相談があった。

個別面談は随時受付しており、市町・JA担当者も入って実施。JA就農支援センターが9月1日に開校し、トマト3名イチゴ2名計5名が研修中であり、座学を含め支援している。



写真1 支援センターの座学研修

(2) 新規就農者の育成

就農1～3年目の新規就農者の内、センターの関わりが少ない人に対して栽培・経営面等の悩み等を聞き取り。

(3) 青年農業者の育成

魅力ある4Hクラブになるよう八女地区4Hクラブの活動を支援し、毎月1回の定例会や視察研修を実施した。定例会の中で、センター職員による「農薬の基礎」、「土壌診断基礎講習会」及び外部講師による「農薬基礎編」を学習した。プロジェクトや保育園等との食育等八女市・黒木町4Hクラブの活動も担当を決めて支援中。



写真2 農薬工場視察研修



写真3 黒木町4Hクラブによる
園児のいもまんじゅうづくり

3 活動の成果

(1) 新規就農者の確保

昨年度の継続支援により農大研修生が就農した。9月末の新規就農実態調査では、

18名（新規参入2名、親元就農16名）が就農した。

個別面談については、延べ38件（10月末現在）実施し、就農支援に努めた。

J A就農支援センター開校に向けて営農指導員・農家講師とともに研修カリキュラ

(2) 新規就農者の育成

新規就農者の聞き取り調査を行う中で、様々な悩みを抱えながら経営を行っている。課題の多くは、近隣の農家やJ A営農指導員に相談することで解決している。

(3) 青年農業者の育成

旧八女市・黒木町以外の青年農業者も八女地区4Hクラブに直接加入できることになり、4名の加入があった。

4 今後の見通し又は課題

新規就農者の中には、自ら問い合わせするでもなく課題を抱えたままになっている場合もあり、定期的な訪問が必要である。

新規参入者に対する支援は、地域内での課題は多いが、関係機関との連携は、
報も少ない。

課題名：新たな担い手による八女産地の強化 平成27年～29年

(3) 持続可能な中山間地域農業の構築

～地域検討会の充実・複合経営による茶経営の安定化・推進品目等の導入による収益増～

【要約】

地域ごとに異なる中山間地域農業の課題について、その改善策等を地域で検討する体制づくりを呼びかけるとともに、関係機関が連携してその改善に取り組んだ。

複合経営（茶+推進品目）の優良事例を参考にモデル経営類型と複合経営栽培マニュアルを作成し、認定農業者の経営改善相談会等で経営改善資料として活用提案した。

るとともに、

【目的】

推進品目と少量多品目の導入

1 活動対象の概況

- 中山間地域総農家 4,194 戸（販売農家 2,896 戸、自給的農家 1,298 戸）2010 センサス
- 推進品目導入志向農家（既存生産者及び定年退職就農者等）

2 活動の内容等

(1) 地区別推進体制の整備

地域農振会議等に中山間地プロジェクトメンバーも参画し、中山間地域の課題を検討した。

(2) 認定農業者の経営改善

複合経営（茶+振興品目）の地域成功事例をもとに、茶経営の改善に活用できるモデル経営類型の作成と茶作業と重複せず茶農家が導入可能な複合経営栽培マニュアルを作成し、認定農業者の経営相談会等で提案し、茶農家の経営改善を支援した。

(3) 推進品目等の導入・拡大、販売強化

作物相談会、栽培講習会により、推進品目、少量多品目の導入・拡大を図った。

また、少量多品目の品質の向上や規格の統一等を支援し、販売力の強化を図るとともに、新規品目の展示ほを設け、新規品目の導入・販売品目の拡大を図った。

3 活動の成果

(1) 地区別推進体制の整備

矢部地区、星野地区、上陽地区の農振会議で中山間地域農業の課題や改善策を検討し、推進品目や少量多品目の推進、新規品目の展示ほ設置など連携して行動した。

(2) 認定農業者の経営改善

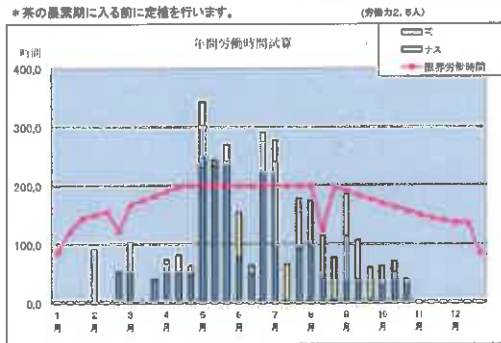
- 複合経営（茶+推進品目）の経営改善事例を参考に4モデル経営類型を作成した。
※4モデル：茶+ナス、茶+キュウリ、茶（主）+イチゴ、イチゴ（主）+茶
- この経営類型を基に茶作業と競合しない、複合経営栽培マニュアルを作成した。
- 経営改善相談会等で、モデル経営類型、複合経営栽培マニュアルを活用した結果、5戸の農家が、経営改善計画に複合経営に取り組んだ。

図1：モデル経営類型（茶+ナス）

茶との組合せ事例(夏秋ナス)

●作物組合せ経営試算例
*夏秋ナス(露地)を10a導入することにより農産所得が90万円の増加が見込

作目名	面積	総収益		経営費		農産所得	所得率
		売上(千円)	(千円)	(千円)	(千円)		
(品種・作業)	a						
煎茶(中山間共同工場)	100	4,000	2,000	1,100	27.5		
かぶせ茶(中山間共同工場)	100	3,000	3,200	700	17.9		
玉露(中山間共同工場)	50	2,500	1,800	900	36.0		
夏秋ナス(4月定植)	10	2,800	1,900	900	32.1		
計	260	13,200	6,600	3,600	27.3		



作業の流れは、複合品目栽培カレンダーを参考にしてください。

図2：複合経営栽培マニュアル（茶+ナス）

栽培カレンダー 4月

茶(煎茶・かぶせ茶)	ナス
<p>4月上旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茶摘み開始のため秋摘みを行わず、最終摘み以降も摘み取る ○かぶせ茶の摘み取りは、秋摘みを行う ○茶摘み開始～10月(山間地)に実施し、2摘茶の摘み取り ○10～11月上旬に定植の準備、定植位置が確保される ○茶摘みに影響がなかったり、一尾に1摘とす枝葉摘みを行い、茶摘みに影響がなくなる 	<p>○茶摘み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定植1ヶ月前：堆肥施用 ○定植20日前：石灰資材施用 ○定植10日前：温床敷用
<p>中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茶摘み開始 ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。 	<p>○茶摘み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。
<p>下旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茶摘み開始 ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。 	<p>○茶摘み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。

7月

茶(煎茶・かぶせ茶)	ナス
<p>7月上旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茶摘み開始 ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。 	<p>○茶摘み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。
<p>7月中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茶摘み開始 ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。 	<p>○茶摘み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。
<p>7月下旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茶摘み開始 ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。 	<p>○茶摘み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新芽前20日前に防除フェーンを処理用薬剤を噴霧する。発生期や、被害に多い場所では1000ppm～2000ppmを行う。

(3) 推進品目等の導入・拡大、販売強化

- 作物相談会、栽培講習会で推進した結果、推進品目等を22戸の農家が導入した。
(内訳：リンドウ1戸、加工用タカナ14戸、レイシ4戸、切枝3戸)
- 少量多品目については、品質向上、規格の統一を支援するとともに、下記の新規5品目の展示ほを設置して少量多品目の品目拡大を図った。
- ・選定理由：作りやすい、特徴がある(ミニ、味、色)、年内に収穫できる。
 - ・5品目：根物：カブ、ニンジン(赤い、甘い)、ゴボウ(ミニ)
葉物：ハクサイ(ミニ)、チンゲン菜(ミニ)
 - ・評価：根物は好評、しかしハクサイ等は大きいものから売れるため、ミニ野菜は直売所向きではなく、販売方法は再検討が必要。
 - ・今後の方針：根物を中心とした、周年出荷できる品目の組合せの検討を行う。

4 今後の見通し又は課題

「中山間地域農業の課題と改善策の継続的な検討」、「主力となる茶農家の経営の安定」、「少量多品目など新たな収益の確保」を実現し、中山間地域農業の持続を図る。

課題名：持続可能な中山間地域農業の構築 平成27年～29年

(4) 女性農業者の経営能力向上

～経営ビジョン作成にチャレンジ～

【要 約】

農業に従事する女性を対象に、園芸品目の基礎的な栽培技術、マーケティング、農業経営について研修会を開催した。13名の受講者は、経営ビジョンの作成に積極的に取り組んだ。

【目 的】

女性農業者の多くは、育児が一段落した後に農業に従事することが多い。また、栽培技術を習得しないままに就農するケースが多く、栽培研修会等への出席の機会が少ないのが現状である。

そこで、女性農業者を対象とした経営ビジョン作成研修を開催した。栽培技術、流通の現状、我が家の経営収支の把握等の講座を通じ、3年後、5年後、10年後のライフプランの樹立を通して女性農業者の経営能力の向上を図る。

1 活動対象の概況

JA ふくおか八女イチゴ部会
広川地区女性部 14名

2 活動の内容等

(1) 先輩女性農業者に学ぼう！

指導農業士の鹿野寿子氏を講師に迎え「就農の道のりと経営展開」について講演会を開催した。



写真1 JA ふくおか八女イチゴ部会広川地区の受講者

(2) イチゴの栽培管理講習

普及指導員とJA ふくおか八女営農指導員がビジョン研修の中でイチゴの栽培の基礎から管理について講習を行った。

(3) 決算書の見方と経営ビジョンの作成

税務申告の書類をもとに経営分析を行い、経営目標を明確にするとともに我が家の経営ビジョンを作成した。

(4) ファイナンシャルプランナーによる講座

お金のプロであるファイナンシャルプランナーによる講座を通じ、「お金の価値」につ

いて学習の機会を設けた。

(5) 福岡県農林業総合試験場等の視察研修

視察研修では、福岡県農林業総合試験場において、イチゴの育種及び試験の状況について話を聞いた。併せて福岡大同青果や大型商業施設で、野菜の消費動向について研修する機会を設けた。



写真2 試験場視察研修の様子



写真3 経営ビジョン作成研修の講座の様子

3 活動の成果

経営ビジョン作成研修により13名が経営ビジョンの作成を終えた。受講者の中には、「女性だけで起業してみたい。」「イチゴ栽培の現地研修会を行いたい。」「老後も含めた生活設計について検討したい。」などの声が聞かれた。

研修内容は、「イチゴの栽培の基礎から管理」について時間を十分に設けるよう配慮した。経営を中心とした講座では片苦しい内容となりがちであるが、栽培管理の内容を多くしたことによって質問が多く寄せられるなど活気ある講座となった。

今回の経営ビジョン研修会は、イチゴ農家が対象であったため、講座を6月～10月までの間に集中的に行ったことより、内容が途切れることなく実施できた。

4 今後の見通し又は課題

経営ビジョン作成研修は、25年度より実施してきた。農業就業人口の半数は、女性であり、女性が担う作業も多い。女性が経営のパートナーとして役割を果たし、経営の安定や拡大に寄与するために、講習会や現地研修会等に男女を問わず参加できるよう、品目を問わず推進したい。

(5) 水稲「元気つくし」の生産安定に向けて ～近年増加しているいもち病への防除対策～

【要約】

「元気つくし」の安定生産で課題となっているいもち病の対策として、育苗時および本田への予防剤散布の効果を調査した。結果、葉いもち初発時における、本田へのコラトップ1キロ粒剤12の散布が有効であった。

【目的】

水稲「元気つくし」については、米の食味ランキングで4年連続特Aを取得したことによる宣伝効果もあり、認知度は向上しているものの、生産段階では近年の低温・寡照によるいもち病の発生が課題となっている（写真1～3）。そ



写真1

いもち病発生



写真2 木の陰で葉いもち発生



写真3 平坦地でも穂いもち発生
多肥部は多発

1 活動対象の概況

(1) 元気つくし（平成26年）：321ha、401名

2 活動の内容等

(1) 農薬展示圃（苗いもち対策にビームゾル（以下ビーム）灌注（緑化始期200倍液、0.5ℓ/箱）、葉いもち対策にコラトップ1キロ粒剤12（以下コラトップ）散布（1kg/10a）の設置と効果確認、補正農薬散布の呼びかけを実施した。

(2) 水稲定点調査（生育・病虫害）の実施と営農情報の発信を実施した。

3 活動成果

(1) ビームゾルの試験

ビームの灌注では苗箱内のいもちの発生を明確に抑制できなかった。

また、2か所で調査した結果、本田における葉いもちの抑制効果も明確ではなかった（表1）。

月日	圃場A		圃場C	
	ビーム有	ビーム無	ビーム有	ビーム無
7/7	0%	0%	0%	0%
7/16	0	0	1	0
7/23	1	2	4	6
8/10	15	11	14	11

表1 ビーム灌注の効果（本田葉いもち株率）
元気つくし 6/4灌注、7/23コラトップ

(2) コラトップ1キロ粒剤12の試験

いもち病常発地で、補正防除（コラトップの散布）により葉いもちの発生を軽減することができた（表2）。

また、葉いもちに対する治療効果と穂いもちに対する予防効果をねらい、出穂前にブラシンを散布するよりも、予防として早めにコラトップを散布したほうが、効果が高かった（表3）。

7月16日には葉いもちの初見を確認し（表1）、コラトップの散布は7月23日となった。よって、これ以前の7月10～15日の施用によってより効果が高くなると思われる。

月日	コラトップ有7/23 圃場A	月日	コラトップ無、慣行 圃場E
7/16	0%	7/15	0%
7/23	1	7/24	1
7/30	6	—	—
8/10	15	8/6	28
8/31	20（止葉）	8/31	30%（止葉）

表2 コラトップの効果（本田葉いもち株率）
元気つくし、基本防除実施 出穂：8/23

場所	調査日	農薬散布	穂いもちの罹病率	
			株率%	穂率% (穂首いもち)
圃場A	9/18	コラトップ7/23 予防	7.1	1.7
圃場B	9/30	ブラシン8/11 補正	9.3	7.5
圃場C	9/25	コラトップ7/23 予防	7.8	0.9
圃場D	9/25	ブラシン8/11 補正	10.0	15.6

表3 コラトップの予防効果とブラシンの治療効果（本田穂いもち株率、穂率）
元気つくし、基本防除実施 出穂：8/23、成熟期：10/1

(3) いもち病の発生状況確認、補正農薬散布の呼びかけ

いもち病の調査、情報提供、防除体制の整備、迅速な農薬散布でいもち病の発生を低減した。

7月29日の元気つくし研究会の現地調査で葉いもち発生を研修参加者で確認。

8月6日の生育診断会で葉いもちの進展を確認。

→補正農薬散布の必要性を納得

→関係団体の調整によってブームスプレーヤー所有者に散布依頼

→8月11日補正散布実施→いもち発生の低減（達観）

（
（
（

(6) トマトの新規者確保と経営安定による産地拡大

～県内トマトを牽引する産地へ～

【要 約】

トマト新規栽培者や青年部に対して、早期技術習得と経営安定のため研修会等を開催し、5か年で生産者数が24名増加した。また、現地検討会等により、技術レベルが向上し、収量の増加と共同販売額が13億円を超えた。

【目 的】

八女地域のトマト産地は、生産者の高齢化や資材費の高騰が続く中、栽培規模や出荷量を確保しながら、産地を維持して行くことが重要である。

そのため、将来、産地の担い手となる青年部や新規栽培者が早期に技術を習得できるよう支援を行う。

また、定期的な現地検討会や講習会の実施、新品種展示ほ等を設置し、生産性向上による経営安定を図る。

1 活動対象の概況

- | | |
|--------------------------|--------------|
| (1) JAふくおか八女とまと部会（大玉） | 八女市、筑後市、広川町 |
| 冬春：64戸 16.7ha | |
| (2) JAふくおか八女契約とまと研究会（中玉） | 八女市、筑後市 |
| 冬春：22戸 5.6ha | 夏秋：15戸 1.6ha |

2 活動の内容等

- (1) 定期的な栽培管理講習会や現地検討会の実施
 厳寒期の草勢維持管理・病虫害防除の徹底により、収量向上を図った。（写真1）
- (2) 新規栽培者や青年部を対象とした研修会の開催
 平成26年度から、トマト栽培1・2年目の生産者を対象に、年に2回、トマト栽培基礎セミナーを開催し、新規栽培者の早期技術習得と経営安定に向けて支援した。
 また、青年部を対象に研修会を開催し、先輩農家と技術や経営面での相談ができる場を設け、安心してトマトを作れる環境づくりを行った。（写真2）
- (3) 新品種展示ほ及び新技術試験ほの設置
 多収で良食味である新品種の展示ほを設置し、部会や研究会で品種の統一を図った。さらに、現状の品種よりも優良な品種を模索し、毎年、試験ほを設置している。
 また、光合成促進装置を活用した収量向上試験ほを設置した。
- (4) トマト担当者会議の開催
 トマト担当普及指導員とJA担当者が、月1回程度集まり、課題の共有化や情報交換を密に行った。



写真1 栽培管理講習会の様子



写真2 トマト栽培基礎セミナーの様子

3 活動の成果 (平成26年度産)

- (1) トマト新規栽培者は、5か年で24名となり、生産者数・栽培面積が増加した。
(県内最大規模)
- (2) トマト販売額は、13億円を超え、5か年で約25%増加し、産地が拡大した。
- (3) 1戸あたり販売額が増加し、経営が安定した。

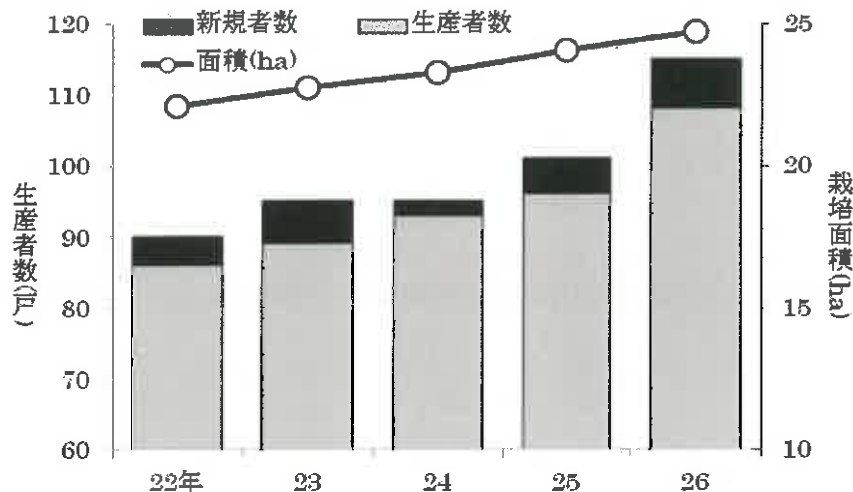


図1 トマトの生産者数と栽培面積の推移

4 今後の見通し又は課題

- (1) 継続して講習会を実施するとともに、新技術の導入（光合成促進装置の活用）や新品種の模索により、さらなる収量向上を目指す。
- (2) 新規栽培者の早期技術習得・経営安定に向け、研修会等により支援を継続する。

課題名：トマトの生産性向上と安定生産による産地維持発展 平成22年～26

(7) 新品種「シャインマスカット」の産地育成

～期待品種の迅速な導入・普及拡大による生産者の所得向上～

【要約】

八女地域におけるブドウ生産者の所得向上を目的として、「シャインマスカット」の導入、普及拡大を図った。普及センター、市町村、JA 及び部会から構成される産地協議会が一丸となり推進した結果、部会において、平成 22 年から 5 年間で、部会員の 23% (76 名) が出荷するようになり、作付面積は約 8 倍、出荷量は約 21 倍に拡大した。また、市況単価においても「巨峰」と「ピオーネ」と比較して高く、生産者の所得向上に寄与した。

【目的】

当管内は、JA 福岡八女ぶどう部会を中心に、西日本屈指のブドウ産地である。主な品種は「巨峰」であり、西南暖地の温暖な気候を活かし、施設栽培による作型分散により生産者の経営安定を図っていた。しかし、近年、重油高騰等による加温施設栽培の経費増加や地球温暖化による夏季高温期の着色不良のため、生産者の所得は伸び悩んでいた。

一方、国が育成した「シャインマスカット」は、黄緑系品種であるため着色の心配がいらず、「皮ごと食べられる種なしブドウ」として消費者からの評価が極めて高い品種である。そこで、当品種の導入、普及拡大によるぶどう生産者の所得向上を目指した。

1 活動対象の概況

JA 福岡八女ぶどう部会 (平成 26 年度概数)

部会員：331 名、栽培面積：170.8ha、生産量：2,187t、販売額：約 23 億円

2 活動の内容等

(1) 率先した試験研究とそれを反映した栽培技術の確立

(「シャインマスカット栽培指針」の作成と随時改訂)

ア 当品種は、全国的に植栽面積が急増しているものの、普及開始より 10 年未満ということもあり、栽培技術の知見が乏しく、既存の技術のみでは対応が困難であった。そのため、JA との現地巡回や生産者の声から課題を抽出し、現地展示ほ等を通して栽培技術の検討、また、部会との栽培方針の協議を重ねることで、平成 25 年に「シャインマスカット栽培指針」を作成した。さらに、毎年新たに得られた知見に基づいて随時改訂を行うことで、より充実した指導内容を目指している。

イ 上述の基礎的な栽培技術に加えて、「未熟果粒混入症」、「かすり症」および「果梗部黒変症状 (仮名)」のような品種特有の生理障害等、未解決な課題も多く存在する。そこで、特に重要な課題については、普及センターが中心となって年に 1～3 課題、試験ほの設置、調査を行っている (写真 1 左)。得られた情報は栽培指針に必要な応じて反映するとともに、一部の成果は学術学会での報告を行うことで、全国の研究機関等との綿密な情報交換に努め、未知の現場課題に対しても迅速かつ戦略的な課題解決を図っている。

(2) 細やかな現地指導による確立した栽培技術の普及

ア 主力品種の「巨峰」栽培の歴史が約50年以上と非常に永い中、特性の異なる当品種の栽培技術は生産者のこれまで培った技術が通用しない点が多い。そこで、「巨峰」群と別途に講習会を開催するのみならず、年一回の栽培指針説明会を通じた栽培技術の周知を図った。さらに、JAと協力して、全園地に見本樹を設置し、徹底した技術普及を行った(写真1右)。

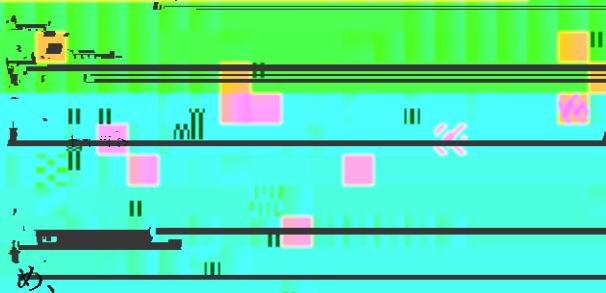


写真1 試験ほ(慣行と異なる摘心による新梢管理)設置と全園見本樹設置

イ 全国の主要産地が500~800g/房が主流の中、当部会では、粒数を制限し、食味向上と消費者が購入しやすい400g/房を目標とした房づくりに取り組んでいる。しかし、当品種は、比較的奇形花が発生しやすく、樹齢を重ねると果粒肥大が著しいため、小房を作ることは非常に困難を要する。そのため、見本樹設置の取り組みの中で、目標とする房づくりと適正着果量を示し、啓発に努めた。

3 活動の成果

部会において、平成22年出荷からの僅か5年間で、部会員331名のうち76名(23%)が「シャインマスカット」を出荷するまでに至った。



これにより、目標が達成された。

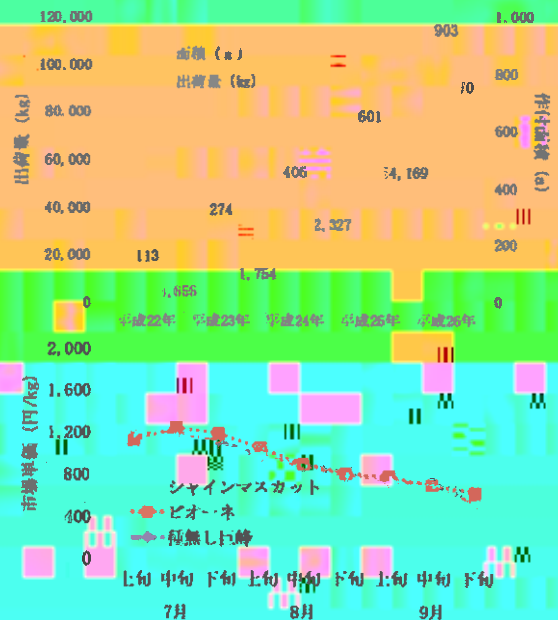


図2 「シャインマスカット」の出荷量と作付面積および管内の品種別旬別販売単価の推移(H26)

4 今後の見通し又は課題

当管内では今後も「シャインマスカット」の作付面積の拡大が見込まれており、それに伴って加温ハウスによる促成・半促成栽培が増加することが推察される。品種の成熟特性上、これらの作型での栽培は困難を要するため、現状の課題解決に加えて一層の技術改良を行いたい。また、販売面では、全国的にも急激に生産量が増加している中、数年後には品質・ブランド力による産地淘汰(単価の下落)が危惧される。そのため、基本的な管理技術のみならず、適正着果量の厳守や適期収穫の啓発等、品質向上のための取り組みを強化することで、「シャインマスカット」の収益性を維持したい。

課題名：新品种「シャインマスカット」の産地育成 平成22年~26

(8) 中山間地を中心とした茶工場経営体の育成・確保

～茶工場の経営安定に向けて～

【要約】

中山間地を中心とした60の茶工場経営体に対し、経営状況の点検等を実施した。

その結果、経営の悪化が多くで確認されたため、実態調査をもとに関係機関や組合員と今後の方針について協議を行った。加えて、一番茶期における重点的な技術指導を行い、安定生産と品質向上による収益向上を支援した。

また、茶加工機械の適正導入も支援し、8工場で省力高性能機械の導入による経営の改善が図れた。

【目的】

中山間地で共同経営している茶工場経営体を中心に、関係機関と連携して経営状況を調査し、茶工場経営体の問題や実態の把握を行う。さらに、財務・労務管理の改善に向けた取組を組合役員とともに協議し、将来計画等を練ることにより、共同経営体役員の経営能力の向上を図る。

また、一番茶期を中心に収益性の高い茶を効率的に製茶するための技術支援を行うとともに、茶加工機械の適正導入のため、事前に問題や実態を把握し、事業計画樹立、補助事業の円滑活用、資金調達等のソフト面で支援を行い、収益の向上を図る。

1 活動対象の概況

茶工場経営体 138戸（法人20、個人66、共同組織52）

2 活動の内容等

(1) 経営改善の推進

○個別相談会をJA茶業部会支部ごとに開催し、関係機関と協力して茶工場役員との個別面談を行った。

・平成25・26年度個別経営相談会：52工場（黒木、上陽、星野、矢部）

・平成27年度個別経営相談会：47工場

○関係機関との経営計画の評価、検討会

・H27年度 3回

(2) 製茶技術改善支援

管内重点工場(6経営体)に対し一番茶期を中心に重点的な製茶技術指導を行った。

(3) 省力高性能茶加工機械の導入

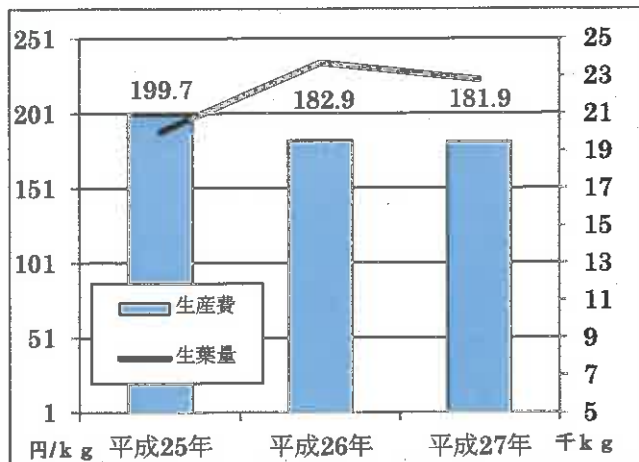
経営改善に向けた施設投資の分析を行い、過剰投資とならないように支援を行った。

3 活動の成果

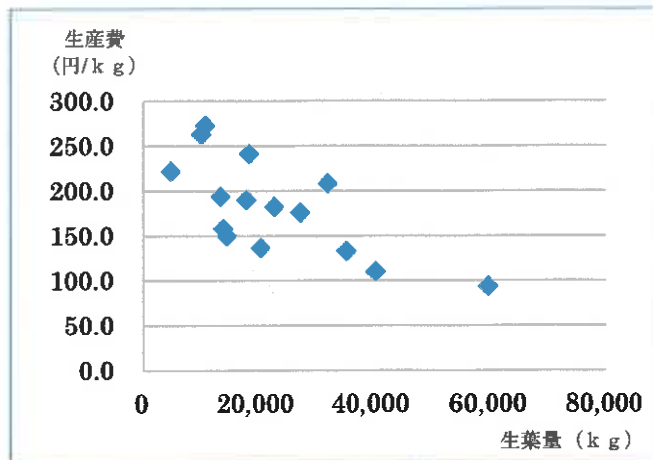
(1) 経営改善の推進

共同工場の診断結果によると、共同工場の生葉処理量の平均値は昨年と比べやや低下しているが、生葉1キロ当たりの荒茶生産費は低下しており、各工場の経営改善の努力がうかがえる(第1図)。また、荒茶生産費と生葉処理量の分散図からみて、明らかに処理量が多いほど生産費が低くなる傾向が認められ、生葉の確保が大きく生産費

低減につながるといえる（第2図）。



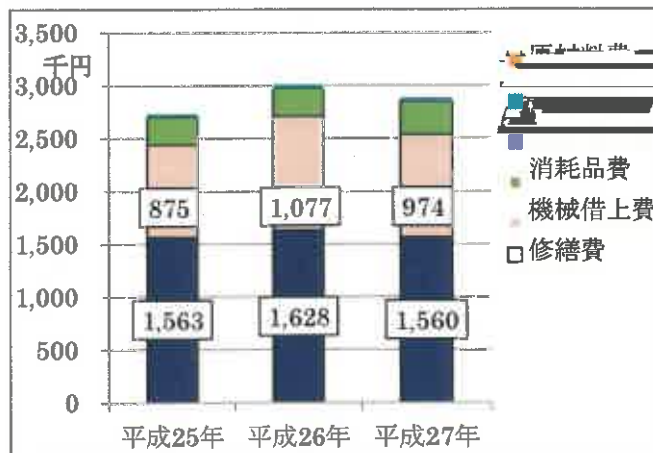
第1図 荒茶生産費と生葉処理量の推移（平均値）



第2図 荒茶生産費と生葉処理量の分散（2015）

生産原価の構成面から見てみると、本年度の1・2番茶生産が短期集中型であり、製造が集中して行えたことと、昨年と比べ燃油価格が低下したことにより、労務費と動力光熱費が昨年より低減できており、そのことが荒茶生産費の低減に結びついたものと思われる（第3図）。

以上のことより、生葉の確保と無理・無駄のない生産計画の策定が経営改善に必要と考えられる。



第3図 生産原価の推移（平均値）

(2) 製茶技術改善支援

一番茶期に重点的な巡回指導を行ったことにより、安定的な製造と品質の向上が図れた。

(3) 省力高性能茶加工機械の導入

経営改善に向けた施設投資に対し、高品質な荒茶を製造するために適切か否かの分析を行うため、経営計画自己点検を実施し、8工場が補助事業を活用した省力高性能茶加工機械の導入を行った（平成26年度6、平成27年度2）。

4 今後の見通し又は課題

今後も継続的な茶工場経営体の経営診断を実施し、茶工場役員や関係機関とともに対策・方針の協議を行っていく。さらに、平坦地、個人工場についても経営調査を実施し、地域の核となる工場の経営維持のため、より一層の経営改善を図っていく必要がある。

また、単価の高い一番茶期に効率的に製茶するため、技術改善の支援を行うとともに、茶加工機械の適正導入を図るため、事前に問題や実態を把握し、事業計画の樹立、補助事業の円滑活用、資金調達等のソフト面で支援も行っていく。

課題名：中山間地を中心にした安定継続可能な茶工場経営体の育成・確保 H25～27年

(9) 農業高校との連携による現地課題解決

～シンテッポウユリのウイルスフリー苗の作出～

【要約】

八女地域で育種・生産されている、「博多シンテッポウユリ」の安定した種苗供給を図るため、八女農業高校と連携して課題の解決への取り組みを行った。育種母本となる系統の茎頂培養を行いウイルスフリー個体を獲得した。

【目的】

県内シンテッポウユリ生産者に安定した種苗の供給を行う。また、農業高校等との連携により、施設設備等の有効活用と迅速な課題の解決を図る。

1 活動対象の概況

- (1) シンテッポウユリ育種・生産者（1戸）
- (2) 県内シンテッポウユリ生産者
55戸（内八女地域10戸）

2 活動の内容等

(1) マッチング

生産現場の課題と農業高校の設備等を調査し、農業高校にしかできない課題で連携を図った。

(2) 連携するための課題整理と対策

連携の課題として知的財産権の管理等があり、契約のための書面作成を支援し、両者の連携強化を図った。

(3) ウイルスフリー個体の獲得

供試した3系統の交配母本のウイルスフリー個体を獲得した。



図1 供試する球根の受け渡し
(バイオテクノロジー部の生徒と
シンテッポウユリ育成者(右端))

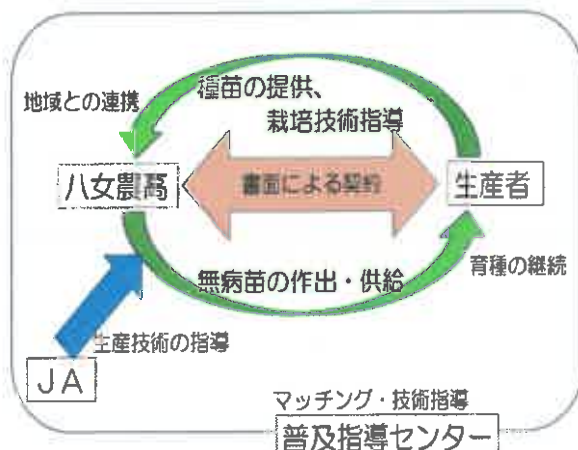


図2 連携イメージと役割

3 活動の成果

3系統の交配母本の茎頂培養を行いウイルスフリー個体を獲得した。農業高校も地元現地課題との結びつきが重要と考えているため、今後も協力体制を継続しながら、課題の解決を図る。

4 今後の見通し又は課題

- ・すべての交配母本でのウイルスフリー個体の獲得と苗の供給
- ・他品目も含めた現地課題と他の機関とのマッチング及び課題解決

課題名：調査研究

平成27年

4 平成 27 年の気象と各作物の生産概況

(1) 平成 27 年気象概要

1月：大陸の高気圧に覆われる日が多かったが、気圧の谷の影響で高温、多雨、多照となった。

2月：天気は数日の間期で変化。5日は強い寒気の影響で雪を降らせた。その後、おだやかな天気が続いた。

3月：

4月：

5月：

6月：

7月：

8月：

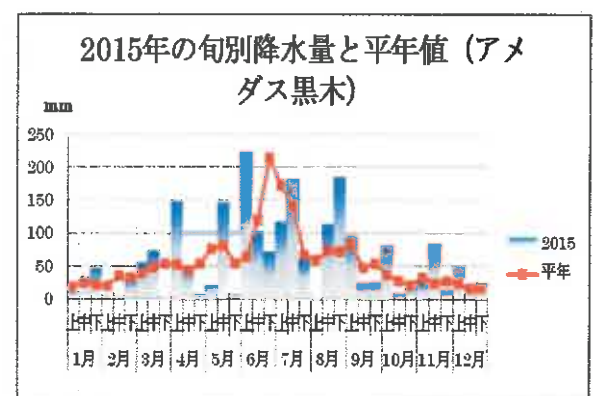
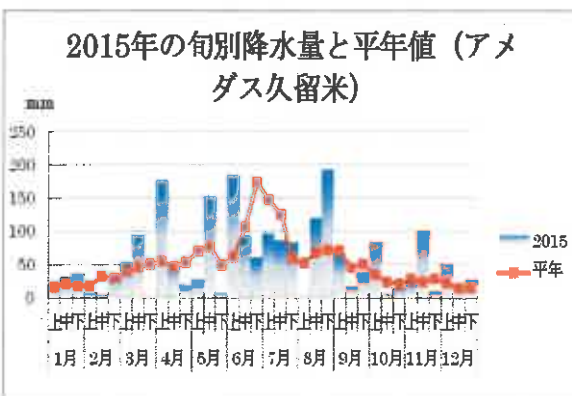
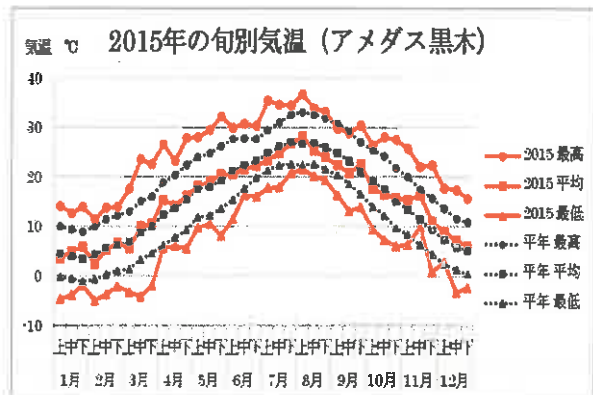
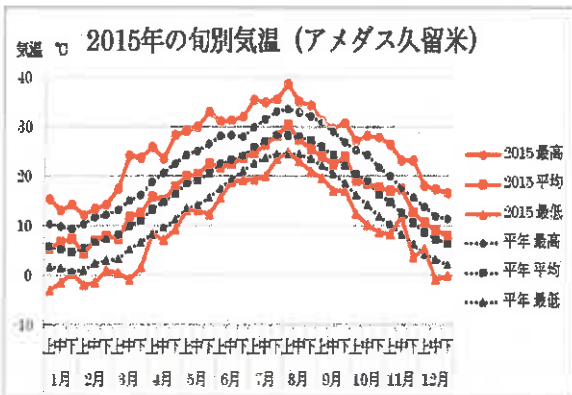
9月：

10月：

11月：

12月：

が広がり ←



(2) 各作物の概況

【水田農業係】

・麦：播種は11月17日頃より始まり、その後順調に実施されたものの一部地区では工事の影響等により12月中旬以降までずれ込んだ。冬季は気温が高めで推移し、出穂は早くなったものの12月～1月にかけての断続的な降雨により肥培管理が遅れ、穂数がやや少なくなった。登熟期も気温は高めで推移したため成熟期はさらに早くなり、登熟前期の日照不足や5月中旬の大雨で登熟は悪化し、収量は平年より少なくなった。

・水稻：田植は早いところで5月中旬から始まり、その後水不足もなく概ね順調に進んだ。生育期間を通じて寡照、低温傾向だったため分けつの発生や茎の充実は不足気味となり、出穂期は遅れる傾向が見られ、中山間部及び平坦の一部では苗のノリ、二葉ノリでいもち病の発生があった。出穂後も低温傾向が続

いた。その後、7月以降は、その後の
長
収量
め、
くなった。

- ・12月の低温の影響で、イチゴは2番果の収穫が遅れ、リーフレタスは亀裂褐変症が発生した。
- ・1月は高温で推移したが1月下旬～2月の低温、日照不足により、ナスやトマトでは灰色かび病が発生した。
- ・3～4月は高温で推移し、イチゴでは日焼け果や黒カビの発生が多く見られた。リーフレタスでは抽苔やアブラムシの発生が多かった。
- ・梅雨入りは6月2日と平年より早かった。6～7月のまとまった降雨と曇天による日照不足により、イチゴの徒長苗や中玉トマトでは着色不良果や樹勢低下が見られた。
- ・8月25日の台風15号の影響で、ハウスの損壊や作物の倒伏が発生した。
- ・イチゴでは9月上旬の降雨で、ほ場の準備に時間がかかったが、平年並みの定植が行われた。また、9月～10月上旬が低温で推移したため、2番花房の花芽分化は良好だった。
- ・11月～12月は高夜温、日照不足で病害の発生が多かった。イチゴは頂果房が小玉傾向となり、玉落ちが早かった。リーフレタスは前進出荷となり出荷量が増加した。

【花き係】

・キクは、4月上中旬、また11月から12月下旬まで、平年と比較して平均気温

- が高く、曇天が多く日照時間が短かった等の影響で、白さび病が発生した。
- ・ガーベラ、洋ランは、11月下旬から12月下旬にかけて日照時間が平年と比較して短く、平均気温が平年と比較して高く推移したことから、花の座死が見られ出荷量が少なくなった。
 - ・なお、8月25日の台風15号により、キクを中心にハウスの倒壊や破損などの被害が発生した。(被害件数：97件、被害面積：7,032㎡)。

【特産係】

- ・一番茶は、3月上旬まで気温が低く、3月中旬に気温が上がったため芽揃いが良く萌芽が進んだ。3月下旬に降霜があり一部早生品種で霜害が発生した。その後、4月の気温上昇と長雨により生育が前進し、4月11日からの製造開始となった。芽揃いが良く、大きな霜害がなかったことから短期集中型の生産となった。
- ・二番茶は、伸長期間の気温・降水量が平年を上回っていたため生育が前進した。また、長雨により全域で、もち病の発生が見られた。その後、摘採期間の6月中旬に夜温が低下し生育が鈍化したことで、ミル芽摘採が図られた。
- ・梅雨明け以降真夏日が続き、降雨が少ない時期があったため、秋芽の生育が悪い茶園が多く見られた。10月以降も日中の気温が高かったため、早めに秋整枝を行った茶園や早生品種の伝統本玉露園において、一部再萌芽が見られた。

【果樹係】

- ・発芽・開花は、多くの果樹で概ね平年並みであったが、結実は、ウメ、ナシ、キウイフルーツを中心に全体的に不良傾向であった。
- ・特に3月～4月の春季の天候は、低温、降雨、晩霜、強風と天候不順であったため、発芽・開花のバラつき、芽枯れ、単為結果等が多くの果樹で見られ、また初期生育も不良となり、全体的に小玉傾向で推移した。
- ・病気は、全体的に多く、ナシの黒星病、モモのせん孔細菌病、キウイフルーツ花腐れ細菌病等が多発し、特に重要病害であるキウイフルーツかいよう病の発生が産地全体で問題となった。一方、虫害は、全体的に少なかったが、温暖な秋季の影響で、カメムシ(局所的)、ハダニ、カイガラムシが発生した。
- ・5月～6月は、生育も回復傾向となったが、カンキツでは、生理落果が多く、結実不良の要因の一つとなった。
- ・7月～8月は、例年より日照不足になったため、夏果実の品質や次年度作の花芽形成に影響が出た。また、8月25日の台風15号により、樹体や果実では、ナシの落果、カキ・キウイフルーツ・核果類の枝折れ、落葉・倒伏等被害が発生した。施設ではハウス・果樹棚の倒壊、ビニールの破損等の被害が発生した。
- ・9月以降、天候が回復し、秋果実(ミカン、キウイフルーツ、カキ)は、全般的に食味は良好であったが、10月以降の高温多雨により、ヘタスキ・軟熟果の多発(カキ)、腐敗果の発生(キウイフルーツ、カンキツ)が例年より多く、青果率低下の要因となった。

5 平成 27 年度 表彰事業実績

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
第 20 回 福岡県農林水産まつり	農業	特別功労賞	重野正敏	広川町
第 20 回 福岡県農林水産まつり	地域集団	優秀賞	株式会社 山の神工房	八女市 立花町
第 20 回 福岡県農林水産まつり	農産	優秀賞	J A ふうおか八女 ラー麦研究会	筑後市
第 45 回 日本農業賞	集団組織の部 (イチゴ)	農林水産大臣賞	JA ふうおか八女 いちご部会	八女市 筑後市 広川町
第 69 回 全国お茶まつり	農業	茶業功績者	松延利博	八女市
平成 27 年度 九州茶業研究大会	農業	茶業功労者	古川明俊	八女市
第 69 回 全国茶品評会	玉露	農林水産大臣賞	井上一美	八女市 上陽町
第 69 回 全国茶品評会	玉露	農林水産省 生産局長賞	金子 守	八女市 上陽町
平成 27 年度 福岡県茶共進会	煎茶	農林水産大臣賞	樋口恵子	八女市 上陽町
平成 27 年度 福岡県茶共進会	煎茶	九州農政局長賞	樋口龍也	八女市 上陽町
平成 27 年度 福岡県茶共進会	玉露	農林水産大臣賞	新枝折製茶 城 昌史	八女市 黒木町
平成 27 年度 福岡県茶共進会	玉露	九州農政局長賞	山口孝臣	八女市 星野村
平成 27 年度 福岡県茶園共進会	煎茶園	農林水産大臣賞	松延久登	八女市
平成 27 年度 福岡県茶園共進会	玉露園	九州農政局長賞	(農) みどり園大洲 堀川祐助	八女市 黒木町

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
平成 27 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （夏秋咲きギク）	九州農政局長賞	園田直幹	広川町
平成 27 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （夏秋咲きギク）	福岡県知事賞	中園晃二	八女市
平成 27 年度 福岡県花き品評会	農産物（ほう）	生産局長賞	園田宇一	広川町
平成 27 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （電照ギク）	農林水産大臣賞	末石 敏	八女市
平成 27 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （電照ギク）	生産局長賞	中島廣美	八女市
平成 27 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （電照ギク）	九州農政局長賞	西村俊二	八女市
平成 27 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （電照ギク）	福岡県知事賞	青木正美	八女市
平成 26 年度九州ブロッ ク豆類経営改善共励会	大豆経営の部	九州農政局長賞	丸林繁美	八女市
平成 26 年度福岡県 大豆作経営改善共進会	大豆 （集団の部）	優良賞	農事組合法人 たかえ	筑後市

6 平成27年度 実証ほ一覧

係名	品目名	事業名等	課題名
水田農業係	水 稻	奨励品種決定調査現地試験	中山間地における奨励品種の選定「ちくし91号」
	小 麦	肥料実用化展示ほ(資材協会)	緩効性追肥ゲットB・エムコートS20入り405の効果検討
	水 稻	水稻・麦・大豆優良品種等展示ほ(振興協会)	水稻品種「ヒヨモチ」及び「吟のさと」における新規緩効性肥料の検討
	大 豆	大豆・麦・飼料用米等生産拡大支援事業	大豆専用一発561、ちくごのめぐみの施用効果検討
	水 稻	農業展示ほ(資材協会)	ブラシバリダベスト粉剤DL(殺虫・殺菌剤)、月光ジャンボ(除草剤)の効果検討
	小 麦	農業展示ほ(資材協会)	リベレーターフロアブル(除草剤)の効果検討
	水 稻	産地ブランド発掘事業	「元氣つくし」の良食味(特A米)栽培実証
野菜係	トマト	品種比較試験	大玉トマトにおける品種比較(No.172)
	トマト	調査研究	「CF桃太郎はるか」におけるすじ腐れ果発生要因調査
	トマト	ブランド化推進事業	大玉トマトにおける炭酸ガス施用・日中加温併用による増収効果の検討
	ナス	調査研究	雨よけ夏秋ナスの土壌病害に対する土壌消毒剤の検討
	ナス	現地試験	天敵(スワルスキーカブリダニ)の定植前苗放飼効果の検証
	イチゴ	ブランド化推進事業	県育成系統試験
	イチゴ	ブランド化推進事業	二酸化炭素日中施用試験
	イチゴ	調査研究	イチゴ栽培における高収量者と平均収量者のハウス内環境実態調査
	イチゴ	現地課題解決	イチゴ「あまおう」の株冷処理における1番花房の未分化の要因及び対策の検証
	イチゴ	調査研究	イチゴ栽培における高収量者と平均収量者のハウス内環境実態調査
	ナス、トマト、キュウリ、オクラ	農業展示ほ(資材協会)	プリロッソ粒剤(ナス)ベネビアOD(トマト)ベリマークSC(キュウリ)プレオフロアブル(オクラ)
花き係	ガーベラ	花き技術確立実証ほ	ガーベラの品質保持のための水揚げ促進剤の検討
	リンドウ	新たな花き需要創出対策に係る実証ほ	リンドウにおける他家交配の有効性の検討
特産係	茶	農業展示ほ	ナリアWDG、茶ちゃっとフロアブル
果樹係	カ ン キツ	調査研究	「早味かん」における摘果時期の違いが果実肥大に及ぼす影響
		優良品種栽培展示ほ	「早味かん」簡易貯水槽かん水試験
	ナ シ	省力型整枝展示ほ	ジョイント整枝による省力効果
		調査研究	選定時期の違いがナシの発芽不良に及ぼす影響
	カ キ	コンソーシアム事業	カキ「秋王」の結実不良対策
	ブ ド ウ	調査研究(共同)	「シャインマスカット」の果梗部黒変症状の発生要因の探求
		調査研究	「シャインマスカット」における新梢管理方法と環状剥皮処理が「未熟粒混入症」と「果梗部黒変症状(仮称)」に及ぼす影響
	ス モ モ	現地試験	ニホンスモモ「貴陽」における摘果時の果梗径と果実品質及び核重の関係
	ウ メ	農業展示ほ	マスターピースのウメかいよう病に対する影響
	キウイフルーツ	農業展示ほ	フェニックスフロアブルのキウイフルーツのキクビスカシバに対する影響
産地ブランド発掘事業(兼調査研究)		キウイフルーツ「甘うい」の肥大・成熟特性の把握	

7 平成27年度 現地活動情報

(県HP掲載)

No.	タイトル	係名
1	八女茶手もみ競技大会の開催	特産係
2	広川町でガーベラ記念日PRイベントが開催されました	花き係
3	八女茶の新茶初入札会が開催される	特産係
4	新規就農相談会の開催される	地域係
5	JAふくおか八女かんきつ部会生産販売反省会の開催	果樹係
6	一人前のイチゴ経営者を目指して	野菜係
7	第1回経営ビジョン作成研修会を開催しました	地域係
8	八女地域振興推進協議会果樹部会にて見地検討会を開催	果樹係
9	八女電照菊部会青年部 産地の未来を議論する	花き係
10	JAふくおか八女いちご部会出荷反省会の開催	野菜係
11	筑後市新規就農者ネットワーク研修会を開催	地域係
12	イチゴ栽培管理基礎研修会 第2回を開催	野菜係
13	「元気つくし」生産者への後期栽培講習会を実施	水田農業係
14	第3回経営ビジョン作成研修会を開催	地域係
15	中小企業診断士による経営相談会を開催しました	地域係
16	第4回経営ビジョン研修会を開催しました	地域係
17	菊の節句イベントを博多駅で開催	花き係
18	矢部地区においてリンドウ品評会を開催	花き係
19	経営ビジョン作成研修会の修了式を開催	地域係
20	八女地域4Hクラブ連絡協議会の活動	特産係
21	幸福を運ぶ黄色い花オンシジウムフェア開催	花き係
22	雇用管理研修会を開催しました	特産係
23	トマト基礎セミナーを開催しました	野菜係
24	八女茶手もみ研修会を開催しました	特産係
25	八女地域の花フラワーアレンジメント教室	花き係
26	ナシ黒星病の撲滅に向けて落葉処理の実演会を開催	果樹係
27	イチゴ栽培基礎研修会「実践編」2回を開催	野菜係
28	中山間地域における切り花栽培を目指して	花き係
29	八女地域農業振興協議会八女茶部会研修会を開催	特産係
30	酒米部会「吟のさと」研究会の反省会を開催	水田農業係
31	広川町で初の集落営農型農事組合法人が設立される	水田農業係
32	第2回トマト栽培技術基礎セミナーを開催しました	野菜係
33	紅茶の互評会を開催しました	特産係
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		

福岡県行政資料

分類記号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703524	27	0002

福岡県筑後農林事務所
八女普及指導センター

〒834-0005
福岡県八女市大島360
電話 (0943)23-3106(代)
FAX (0943)23-3107